

NEWS LETTER

善光寺の世界遺産登録をすすめる会 事務局 ■ 社団法人 長野青年会議所 内
Tel: 026-228-3260
http://www.sekaisan-zenkoji.com

ごあいさつ



善光寺の世界遺産登録をすすめる会
会長 加藤 久雄

私達は、多くの人々に愛され、暮らしの中心にある善光寺と門前町の文化を世界遺産に登録しようとする運動を続けております。

善光寺は日本の仏教伝来の源流に位置し今も全国の人々に親しまれております。そしてこの善光寺を世界遺産に登録しようと呼びかけが始まり、これまで多くの支持をいただき経済団体や市民団体さらには多くの企業からの協力を得て「善光寺の世界遺産登録をすすめる会」として発会し、今ではこの運動を多く

の皆様にご認知いただけるまでになりました。

そして一昨年9月に発表された「世界遺産暫定リストの追加選考」において「善光寺と門前町」はカテゴリー1b(世界遺産暫定リストの候補となりうる資産)に評価されました。長野市民の皆様と協力して「善光寺と門前町」の保全と再生を基にしたまちづくりを進めていきたいと考えています。

そしてこの活動を通して全国に長野の魅力を発信していく所存であります。

長野市重伝建報告書

「善光寺の世界遺産登録をすすめる会」からの調査の実施についての市長要望を端緒として、善光寺及び宿坊等の伝統的建造物群の歴史的な景観を保護保全し、次代に継承していくための調査を決断したのは、平成16年9月のことでした。予備調査を皮切りに平成20年度までの5か年にわたって、これまで建造物の調査を行ってきました。この度、この5か年の調査成果を「善光寺と門前町—善光寺周辺伝統的建造物群保存予定地区調査報告書—」と題して、信州大学土木研究室の協力のもとに刊行することができました。

本書の構成は、調査の概要、研究編(善光寺の建築史的概略、研究史的な

視点からの歴史概観、都市計画的特性からの門前町の分析)、調査編(善光寺とその門前町の伝統的建造物)、保存編(保存構想、まちづくり)からなっております。

また掲載した調査建造物は、善光寺関係の建造物6件、本坊2件、宿坊39件、仲見世10件、関連社寺13件、門前の建造物10件の計80件で、建物築年、建物概要、平面図、立面図、断面図などを掲載しています。さらに善光寺とその門前町の建造物に関しては、6編の考察(本堂の形成過程、本堂の仮堂に関する建築的考察、宿坊の建築構造、宿坊の避難経路、仲見世の建築規制、信仰の場の構成)を付して、建造物の有す

る特性を浮き彫りにしております。特に宿坊の建築においては、明治24年の大火以降、水平方向と鉛直方向への増築が重ねられて現在の景観が形成されてきたことを明らかにしております。

今後新たに、世界文化遺産の登録を構想するにあたって、重要伝統的建造物群保存地区の選定が必須となるため、この報告書の基礎資料を活かして地元の方々と協議しながら、選定に向けた作業を進めていきたいと考えております。今後、さらに重伝建選定に向けて、関係各位の格段の御協力をお願い申し上げます。

(長野市教育委員会文化財課)

出前講座 清泉女学院大学訪問

すすめる会では、長野市民をはじめとする多くの方々に「世界遺産」や「善光寺」のことをより深く広く知っていただくために学校や地域団体を対象とした出張講座の希望団体を募集している。昨年度は12月10日に清泉女学院大学「地域づくり論」においてすすめる会の出張講座を実施した。世界遺産登録推進活動の現状や「善光寺と門前町」が有する世界遺産としての普遍的価値について解説。改めて地域の文化遺産の価値を理解する良い機会となりました。今後も継続して講座希望団体を募集して参りたいと思います。



門前歴史若手サミット活動報告

2010年2月21日(日)、北石堂町のかるかや山西光寺で「第1回 門前歴史若手サミット」(主催:長野郷土史研究会青年部後援:善光寺の世界遺産登録をすすめる会)が行われました。当会の関係者を含め、パネリスト5名が門前町に関する調査や活動の報告を行いました。20代~40代を中心に約40名が参加。門前町の古い町並みの価値を共有し、歴史を生かすまちづくりを目指すことが確認されました。



門前文化ツアー 大人の文化見聞 門前町を訪ねて

去る2009年11月28日(土)に、当会主催で初の試みとなる門前文化ツアー「門前文化ツアー~大人の文化見聞 門前町を訪ねて~」を開催しました。

行き先は、寺社と門前町が有機的に結びついている先進地の伊勢神宮と門前町のおはらい町に選定。善光寺の世界遺産登録に向けて、市民の皆さんの機運を高めることを主眼に企画し、新聞広告、CATVなどの告知により一般市民の参加を募集し、30名が参加して行われました。

ツアーでは、門前町などの学習もバス移動の時間帯に信大土本教授、湯福神社斎藤宮司の下で行い、現地では天照大神を祭る皇大神宮(内宮)を参拝したほか、飲食店や土産物店などが

並ぶ「おはらい町」を散策。おはらい町の関係者の方から町づくりへの取り組みについても説明を聴くなど日帰りツアーとしては盛りだくさんの内容でした。

当会としては、市民参加型企画は今後も機運高揚のために行っていきたいと考えております。



善光寺の 世界遺産登録に向けて

第8回

善光寺と門前町
世界に発信するStatement of OUV

善光寺の世界遺産登録をすすめる会
専門委員
秋枝 ユミイザベル

2005年に世界遺産条約履行のための作業指針(Operational Guidelines)の一部が改正された。この改正以来、世界遺産の新規登録を申請するためには、Statement of Outstanding Universal Value(略してSoOUV、顕著な普遍的価値についての記述)の提出が求められるようになった。これは、遺産の特徴(範囲、登録基準、オーセンティシティ、インテグリティ)、保存管理の体制とマネージメントについて集約した文章であって、世界遺産の物件に関する基本的ID情報のようなものである。そしてこのSoOUVこそ、登録の

申請に向けた審査・評価の際だけでなく、その資産が世界遺産に登録された後も、モニタリングや保存状態の評価に用いられるものなのである。

SoOUVは世界遺産に関してなんらかの検討が必要な各段階において、主要な参考資料となる。申請書の作成、ICOMOSなどの諮問委員会による評価、世界遺産委員会の決議・準備、定期的モニタリング(Periodic Reporting)、保存状態の評価(State of Conservation)、危機遺産リストへの登録の検討、世界遺産リストからの削除の検討、などがそれである。

また、近年の世界遺産会議の動向としては、これから登録を申請する予定の資産はもとより、既に世界遺産に登録されている資産についても、改めてSoOUVを作成することが早急の課題として求められている。

SoOUVは以下の項目についての記述から構成される。

- ①概要(資産についての基本情報、資産の特徴)、
- ②登録基準(価値とその属性)、
- ③インテグリティ、

- ④オーセンティシティ、
- ⑤顕著な普遍的価値を保つために必要なマネージメントと保護に関する要件(Management and protection requirements necessary to maintain the OUV)。

上記のように、世界遺産登録を検討している関係者によく知られている登録基準やオーセンティシティなどについての記述と並行して、保存管理の体制についての記述が必要であると明記されているところに注目したい。

この5つの項目のなかで、後回しにされがちでありながら、初期段階から重要なものが、保存管理計画(management plan)である。これは、世界遺産会議に提出される各国の登録申請の評価のとき、ICOMOSが検討する項目の大きなポイントとなっているといって過言ではない。なぜなら、そもそも世界遺産リストへの登録というのは、各国がそれを通して、「国を挙げて、この遺産を護る責任を負う」と宣言することに始まるからである。最近では登録の枠が厳しくなり、「世界遺産登録」という段階そのものが大きなハードルとして、目的であるかのようになっているケースが少なくない。しかし



本来は、継続的な保護と維持管理こそが登録の目的なのである。

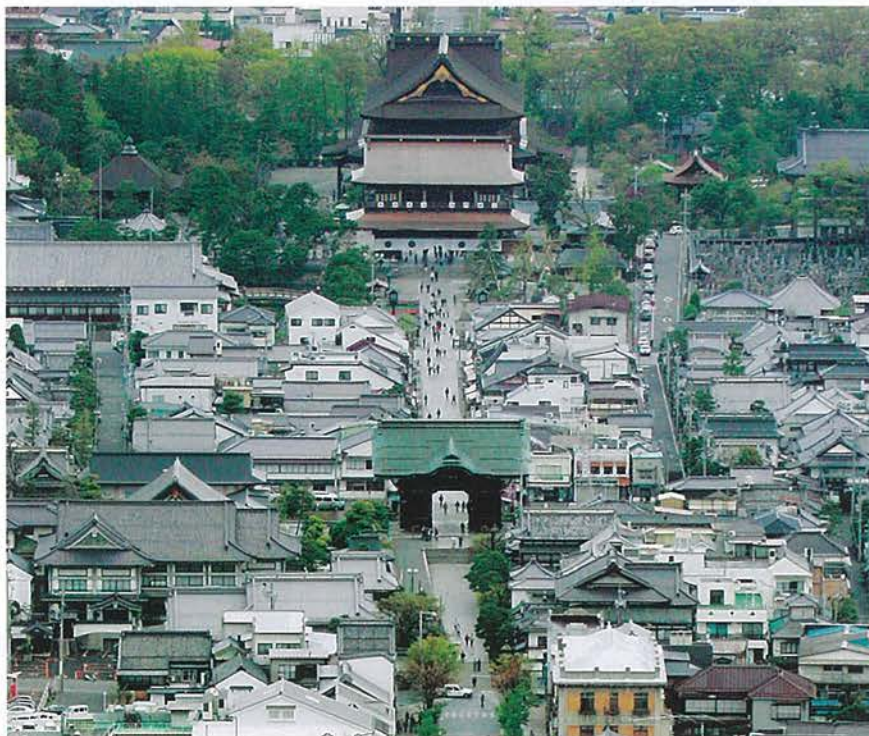
このような長期にわたる保護と維持管理のためになくはないのが、初期段階からの保存管理計画である。顕著な普遍的価値を維持していくための、保存管理である。そのために、ICOMOSが登録の可否を諮問委員会として評価するとき、まず検討するのがその資産の価値であり、その価値を維持していくためにどのような体制が整備されているか、ということである。

したがって、保存管理計画は、都市環境の整備、周辺景観の保護と整備、経済的資源の確保と発展のための施策、なども含めて考えねばならない。無論、そのためには、指定物件の保存のみならず、資産の管理団体の役割、市民・コミュニティレベルの役割も含むことが必要である。

国指定の有形文化財(建造物)以外のものが、どのように保護できるか。必ず起きる変化を許容できる範囲内に留める、コントロールする、というより、望ましい方向へ導いていくには、どのような保存管理計画がつかれるのか。各レベルの関係者が話し合い、共同で策定する必要がある。

善光寺と門前町においては、「不変の軸を保ちながら、変容してきたこと」というのが、その価値のキーポイントではなからうか。このような特徴を持つ資産であるからこそ、保存管理が重要である。今までどのような変化を経てきて、そこに価値が生まれているのか。今後必ず訪れる変化をどのようにうまく誘導し、資産の持っている価値を護りながら、コミュニティの生活と営みを、続けていくのか。これこそ、ボトムアップのプロセスである。合意形成のなかで出来上がるもの。これがあっての皆の文化遺産、世界遺産。

「善光寺と門前町」。このコンセプトには



大きなポテンシャルがある(本誌7号参照)。

遺産の価値の研究も、保護体制の整備も、着実に進んでいる。宿坊の国の登録文化財としての登録、門前町の伝統的建造物群保存地区指定のための調査と成果がその軌跡を示している。

このコンセプトのもとで、善光寺と門前町の普遍的価値をいかにシンプルに、「世界の言葉で」、説明できるか。善光寺と門前

町はひとつの景観をなしている、システムであること。幾重もの層をもつ、関係性と影響の中ではぐくまれてきた空間であること。寺も町も、再建と変容を経てきて、それがゆえに価値をもっていること。無形の要素を示す有形物であること。民衆の信仰心が支えてきた、オープンな場所であること。私たちが、世界に訴えていかなければならない課題は大きい。



秋枝 ユミイザベル(あきえだ ゆみいざべる)

東京文化財研究所文化遺産国際協力センター特別研究員

ルーヴァンカトリック大学大学院で修士号(MSc. Conservation of Historic Towns and Buildings)を取得。

奈良県文化財保存事務所法隆寺出張所で保存修理現場を経験。

東京藝術大学大学院博士課程満期退学。

西欧と日本・アジアの視点を通して文化遺産の保護、建造物とその環境の保存の理念と実践について研究。文化遺産保護のための国際協力を中心に活動中。

『建築遺産の保存 その歴史と現在』(Jukka Jokileht著、A History of Architectural Conservation)を邦訳。

東京藝術大学大学院文化財保存学非常勤講師。

信州大学地域共同研究センター客員教授(2009年度)。ICOMOS会員。

世界遺産門前プロジェクト2009



「善光寺と門前町」の世界遺産登録に向けて調査研究をすすめている信州大学工学部建築学科土本俊和教授(建築史)研究室主催(すすめる会後援)による研究成果の発表が昨年11月29日に善光寺徳寿院大広間にて開催された。世界遺産登録に必要な条件や善光寺の価値などに関する研究成果について、学生らが国内外

の世界遺産と善光寺の比較結果などを解説。また東京文化財研究所特別研究員の秋枝ユミザベル先生による基調講演「世界遺産を取り巻く状況」に加えて、登録を目指す活動について、すすめる会や長野市まちづくり推進課の関係者を交えたパネルディスカッションが行われた。



ご開帳PRブース活動報告

2009年は善光寺ご開帳の年にあたり、私達事務局で4月29日(水)昭和の日に善光寺駒返り通りにブースを出展し、広報活動を行いました。

ご開帳期間中ということもあり大勢の来場客の中で行ったのですが、道行く人に声をかけステッカーやポスターなど配布をし、県内外に幅広くPRできたと思います。

今回、広報活動を行ううえで感じた事は、やはり善光寺世界遺産登録をすすめる会の活動をより多くの人に知っていただくことが必要だと思いました。PRを行っていても地元の人知らない様子で、中でも年配の方にはこの活動を応援してくださる方もいらしたり、

善光寺は歴史があるから、など話しをしてくれる人もいました。

私自身も「善光寺の世界遺産登録をすすめる会」の活動に関わるまで、地元にながらも善光寺の歴史などまったく知らず、どうして善光寺できたかなど考えもしませんでした。こういった活動を続けていくと、不思議と善光寺の歴史が気になったり、昔賑わっていた門前町に興味をもったり自分自身変わってきました。

善光寺世界遺産登録活動を通じてより多くの方に善光寺の魅力や門前町の歴史などを知っていただけるように今後もPRしていきたいと思ひます。



2009年度 事業報告

2009

4月

- 第1回推進会議開催
- ご開帳PRブースを出展し、PRを実施

5月

- 2008年度決算総会

7月

- 幹事会

8月

- 長野びんずるPRブース出展し、PR実施
- 第2回推進会議開催
- 幹事会

9月

- 長野市教育長訪問(重伝建について)

10月

- 第3回推進会議開催

11月

- 幹事会
- 門前文化ツアー大人の文化見聞
～門前町を訪ねて～(伊勢神宮)
- 世界遺産プロジェクト2009善光寺(後援)

12月

- 出前講座(清泉女学院大学訪問)

2010

1月

- 幹事会

2月

- 第4回推進会議開催
- 門前歴史若手サミット(後援)

3月

- 幹事会

2010年度事業計画

暫定リストに向けた活動の推進

- 推進会議を開催(月1回程度)
- 伝統的建造物群保存地区の指定に向けた支援・協力
- 一般市民への啓発活動
- 「世界遺産フォーラム」への参加及びフォーラム開催誘致の調査活動
- PR活動(メディアを使ったPR・ニュースレターの発行・ホームページの更新、充実化・ポスター、パンフレット、ステッカーの作成)

すすめる会会員一覧

すすめる会は、ご覧の会員の皆様方からの年会費によって活動しております。

朝日税理士法人	信防エディックス	ながの観光コンベンションビューロー	長野信用金庫	八十二文化財団
朝日病院	信毎文化事業財団	長野北ロータリークラブ	長野青年会議所	福澤商店
植木商店	鈴木土地	長野ケーブルテレビ	長野設計協同組合	藤森建設工業
エーシー工設計	炭平コーポレーション	長野県経営者協会長野支部	長野通運	バイクックコーポレーション
FMぜんこうじ	駿専・青木商店	長野県建設業協会長野支部	長野都市経営研究所	ホテル国際21
FM長野	善光寺	長野県建築士事務所協会	長野トヨタ自動車	増田商会
エムケー精工	善光寺木遣保存会	長野県社会保険労務士会	長野トヨペット	松澤工業
おらが園	善光寺まちづくり会議	長野県信用組合	長野西ロータリークラブ	松田産業
カシヨ	損保ジャパン長野支店	長野県信用農業協同組合連合会	長野日産自動車	マツヤ
岸クリニック	第一印刷	長野県中小企業団体中央会	長野東ロータリークラブ	マルイチ産商
北野建設	第一建設工業長野支店	長野支部	長野放送	萬住亭
倉田博光会計事務所	第一法規	長野小売酒販組合	長野ユネスコ協会	ミヤテック
小池新聞店	泰和	長野国際親善クラブ	長野ロータリークラブ	宮本忠長建築設計事務所
国際ソロプチミスト長野	タカチホ	長野市区長会	中村建築研究所	明和印刷
国際ソロプチミスト長野みすず	高野総本店	長野市設計協会	中山法律事務所	元善町
小林歯科医院	滝沢無線	長野市電設業協会	夏目	山口司法書士事務所
西條被服	長印	長野市PTA連合会	日新電機製作所	山本写真機店
信濃毎日新聞社	鶴賀病院	長野市文化芸術協議会	日本通運長野支店	八幡屋磯五郎
シューマート	テレビ信州	長野酒造協会	日本機材	
信越定期自動車	電算	長野商工会議所	日本旅行長野支店	
信越放送	東邦商事	長野商店会連合会	野村證券長野支店	
信州製袋	長野朝日放送	長野市連合商工会	八十二銀行	(50音順)

平成22年5月現在 ※表記等で間違いや訂正などございましたら事務局までご連絡下さい。

編集 後記

これまで皆さまのご協力により、当会の運動を多くの方々に認知していただいています。善光寺を私たち市民の手で、世界遺産にする事は門前まちへの関心を高め、郷土の歴史を学び、未来に向かってまちを育てるといった市民意識や郷土愛の醸成に大きな貢献をしています。文化価値の創造は一朝一夕では難しいですが、「善光寺と門前町」の保全と再生を基としたまちづくりを皆さまのご理解とご協力をいただきながらすすめて参りたいと考えています。

(事務局 宮下健吾)